



会報第9号

発行所
栃木県立
真岡農業高等学校
同窓会
発行人
同編集部
同印刷
印刷所
印刷部
印刷部



(女子生徒の実習模様)

産業教育百年式典に 参加して



昭和三年度卒
同窓会長
大倉 一郎

昨年十一月二十日、産業教育百年式典が、文部大臣主宰により国立教育会館に、天皇陛下をお迎へして盛大に挙行されました。

教育界に、人生のすべてを捧げて来られた、八百余名の参列者が、光榮ある表彰を受け、天皇陛下から慰労と激励のお言葉をいただいた感激は如何ばかりだったでしょう。

私も、その一人として参加できましたことは、ただ幸運の一言につきるものであり、県教育関係者に改めてお礼を申し上げる次第であります。

私が、県産業教育振興会に参列をもちましたのは農政関係の先輩五月女博男さんや、経営者協会の大橋繁三さんの強いご推薦によるもので、実力不足の私にとりましては、まことに汗顔のいたりであります。

産業教育が発足されたのは、一九八三年、即ち明治十六年の農学校通則、同十七年商業学校、工業学校通則が発せられてから、まさに百年を経たわけでありまして、しかし、日本の歴史が示すように、或るときは躍進し、或るときは根本からやり直した時代もあったのであります。今日アメリカに次ぐ経済大

本校教育の課題



校長 岡本 茂

農業が社会的に見直されるのは、食うに事欠く時代の到来や、著しい生活環境の汚染または、破壊、自然災害などによる、正常な生活に支障を来たす状態になった時であることは、永い歴史の物語るところである。それに反して、

経済的に恵まれていて、顧みられないものであるが、本校の教育は、これら社会経済のありを、ともに受ける教育の場としての、運命にあるものと思う。

先輩の築いて来られた、八十年になんとする歴史の中で、前述の波を乗り越えて

二十一世紀の日本農業はどう変わるのか、今、急速に進歩するハイブリットやバイオテクノロジーを考えると想像もつかないような変り方をするとおもいます。

農水省は五十六年度から「超多収作物の開発」に取り組み「細胞融合・核移植による新生物資源の開発」「農業生物における遺伝子発現の研究」など数十億円をかけて研究をすすめておりますが、アメリカではすでに相当量の研究開発と四十万点に及ぶ種子を確保し世界の食糧支配に乗り出しているといわれております。

我が国の種子保存は七万種とのことですからアメリカに較べればまだまだ後進的地位に置かれた農業と言わざるを得ません。

そのため十分な研究と開発への投資をもつて国際競争に勝ち残れるだけの備えが必要

とのではない「豊かな人間性」が要求されるものである。斯様な観点に立つて、本校教育を考えると、他校には見られない、素晴らしい特色があるべきであって、他校には追いつかない、誇りがなければならぬと信ずる次第である。

さて、一方本校の現状を考えると、これら先輩の築いた伝統と、誇り得るところの、在校生の生活が行われているであろうか、危うい念を抱かざるを得ない。

本校の施設々備については、県内は勿論、全国の農業高校を凌駕するものがあり、近代的研究等も行われているが、さらに一歩前進しなければならぬ、気力に欠けるなら、なきにしてもあらず。全国に名声をとろかすほどのことはなくとも平凡で、地道な力強

原点の教育ができ、理想的教育を構築できる現場でもあり

今日、我が国の農政が確固たる方向づけの定めに乏しく、農業経営そのものが若者が希望をもつて就業できる環境にあるとはいえない現状では、むづかしい面もありますが、若い優秀な農業の戦力となり得る後継者の養成と確保こそ技術革新とともに真剣に考えていかなければならない問題であると思ひます。

私達、農業教育に関係する者の一つの使命として、国際化が進む中で我が国農政の歩むべき方向を見いだし、他

国の食糧支配を受けたい体質の農業を確立すること、そして、将来にわたって世界をリードできる農業への道を求めていくことが必要であると思ひます。

同窓会名簿発行について



昭和十年度卒
同窓会副会長
勝田 正

手許に二冊の「会員名簿」がある。

一冊は、昭和五十三年発行の本校の会員名簿であり、あとの一冊は、県立真岡女子校同窓会発行の会員名簿である。かつて、女房は名簿の内容を見くらべて、

「私の学校の方が内容が立派ね」と誇らしげに云ったことがある。

私は内心若干しくにさわるものがあったが、現実には仕方がないので、さりげなく「そのうち、俺の学校でも立派なものを作ろう」と話しておいた。

と話しておいた。

このことが現実となったのである。

本校の創立八十周年を記念しその事業のひとつとして、内容的にも具体的かつ詳細な新しい「タイプ」の会員名簿が作られることが決定し、その作業が進められている。

「お前の学校のものより立派なものできたよ」と誇ってやりたかったが、その人は、もう居ない。

トライアンドエラー

試行錯誤

昭和十三年度卒

同窓会監事 山 田 博

「トライ・アンド・エラー」に要約される。私は特に青年の行動はこの試行錯誤によるものが多いと思う。というよりもむしろこの試行錯誤が青年の行動心理を特徴づけるものといえる。特に農業（実行力）である。特に農業を志す若き世代の皆さん、非常に厳しい農業を取巻く諸情勢の中にあつて今後農業という自己の進む道にちゅうちよしてはいないだろうか。「若だんなは億病すぎる。この環境のなかであつても、芳賀町特産の梨の栽培、またガラス温室によるトマトの施設栽培、そしてイチゴ、キウイなどのハウス栽培等にそれぞれ励んでいます。そのなかでも芳賀の梨は、我が同窓生

「トライ・アンド・エラー」に要約される。私は特に青年の行動はこの試行錯誤によるものが多いと思う。というよりもむしろこの試行錯誤が青年の行動心理を特徴づけるものといえる。特に農業（実行力）である。特に農業を志す若き世代の皆さん、非常に厳しい農業を取巻く諸情勢の中にあつて今後農業という自己の進む道にちゅうちよしてはいないだろうか。「若だんなは億病すぎる。この環境のなかであつても、芳賀町特産の梨の栽培、またガラス温室によるトマトの施設栽培、そしてイチゴ、キウイなどのハウス栽培等にそれぞれ励んでいます。そのなかでも芳賀の梨は、我が同窓生

「トライ・アンド・エラー」に要約される。私は特に青年の行動はこの試行錯誤によるものが多いと思う。というよりもむしろこの試行錯誤が青年の行動心理を特徴づけるものといえる。特に農業（実行力）である。特に農業を志す若き世代の皆さん、非常に厳しい農業を取巻く諸情勢の中にあつて今後農業という自己の進む道にちゅうちよしてはいないだろうか。「若だんなは億病すぎる。この環境のなかであつても、芳賀町特産の梨の栽培、またガラス温室によるトマトの施設栽培、そしてイチゴ、キウイなどのハウス栽培等にそれぞれ励んでいます。そのなかでも芳賀の梨は、我が同窓生

同窓会員のこれから思う

昭和十四年度卒

同窓会監事 田 上 進 一

当会の皆さんは、昭和と県下に誇る真農業から輩出された盟友同志として、それぞれの地域にあって、行政、産業、教育の各分野においてリーダーとして活躍して、いますことは誠に慶賀に堪えませ

私達のメッカである母校もその規模設備において今昔の感を強くする程発展充実しつつあります。これはこれ又心強い限りであります。しかしながら内容において、母に優れた志望者が少い、就職に希望を抱く卒業生が極端に減り続ける現状を考えると、真に寒心に堪えません。

支部だより

支部活動状況について

祖母井支部長 山 本 豊

祖母井支部としての活動は、が主力に頑張っていて、規模はばく活発な事業はなかつたように思っています。さて、現下の農業情勢は、食糧自給率の低下、農業労働の高齢化、それに伴う農村の活力の低下、外国からの市場開放要求など、極めて厳しい環境であります。しかしながら、我が支部の会員は、それら環境のなかにあつても、芳賀町特産の梨の栽培、またガラス温室によるトマトの施設栽培、そしてイチゴ、キウイなどのハウス栽培等にそれぞれ励んでいます。そのなかでも芳賀の梨は、我が同窓生

瑞穂野支部だより

瑞穂野支部長 早 乙 女 俊 夫

真農高同窓会の瑞穂野支部は、長坂井通晴氏の後任として私が選任され、これから真農高支部内同窓生の親睦を図るため、支部は行政区画が宇都宮市であり、同窓生が現在34名位で、今日まで同窓生としての交流が少なかつたわけであり、発展を続ける母体の姿などは、私たちが卒業後45年間、日々それぞれの分野で活動し、報などによる情報に淋しさを感ずるものもありました。創立77年の歴史をもつ本校の同窓生は年令的にも人の価値も大変な違いがあります。が、社会も変化に対応しながら進歩を続けているのであり、情報化社会が急激に進展する昨今、物質的な豊かさだけで

会員の声

思い出と十六年のあゆみ

昭和四十三年度卒 河 原 芳 一 郎



私は昭和四十三年度、畜産科卒業生です。農業高校時代のことは今でもよく記憶しています。卒業するにあたって不安の中にも希望を持って卒業できた気がしています。現在、わがままな私が当時卒業する時、各自五カ年計画というプロジェクトを卒業論文として提出し、卒業をした気が致します。私は養豚を選択して、挑戦することができたのです。挑戦することになったのは、同じ体験をするにも良い体験、失敗、この失敗が自分の理想の農業、技術に一つでも近づいたせいもあるかもしれません。自然と進んでしましました。そして有難い事に卒業と同時に、またたく間も知らない間に、熱心な私が失敗の繰り返しの中、中々夢を持ってこまめな経営に取り組み打ちこんでくることができました。それに二つの理由があったからで、その一つは、すばらしい仲間との出会いです。当時真

私の農業観

昭和四十四年度卒 山 崎 光 夫



栽培技術の進展に伴い経営の装置化が進み、資本集積型の農業が育成政策が進んでいきます。水田再編がらみの経営、有難いサイクルの複合経営、合わせて農機具の協同化があげられます。一見バラ色の経営数字を追いかけて暮らしているようで、実は、停滞もしくは一歩後退しているのは、私だけでしょうか？ 今日情報化社会の中で、物流機構、消費者ニーズの変化によって多品目少量販売、高品質の商品に変わっています。高い人件費、テナント代を支払う経営者にとって、消費者ニーズは先取り条件の一つです。新鮮で本物の味、安全性（農薬・添加物）さらに一歩進んで、どこかの誰かがよく作ると作るというプロセスを販売戦略としてもちいるのが有名スーパーであり百貨店業界です。少々高価でも、価値ある食生活を望んでいるはずで、「飽食の時代」の中、決して金さえ出せば、他力本願



農業士紹介

私の農業のあゆみ



昭和二十七年産

黒崎 享

私の地域は、町の北西部に位置する平坦な水田地帯であります。西に野元川、東に五行川があり、水稲、ナシ、野菜、畜産の生産が盛んな地域です。

水田は昭和三十九年に芳賀下高土地改良区基盤整備事業によって、一画が三十一アールとなり、農業機械の高度利用もさらに可能となつてまいりました。水田再編対策による転作物として、主に麦、大豆等が作付されておりました。私は昭和三十一年東京農大を卒業し旧姓「人見」同地区下高根沢に婿養子となり経営を受継ぎ水稲栽培に関心をもち、米の増産運動に取り組まれました。当時は水稲三、四ヘクタール、麦一ヘクタール、ナシ三十アールを栽培していましたが、県をはじめ地域ぐるみで米の一割増産運動が展開されていきました。

三十九年に基盤整備を機に三十アールのナシ栽培をやめ開田しました。この際特に地力が問題になり、良質な堆きゅう肥を施用することから、和牛の肥育をとり入れ堆きゅう肥の確保にのりだしました。和牛の飼育は四頭からはじめ、年間平均した労力で飼育できる和牛を選び、将来の複合経営の柱にしようと方向づけを行いました。現在では肥育牛八頭、繁殖牛「子取り」四頭、

計十二頭の一貫経営に入りました。子牛はその時に応じて矢板市にある県経済連市場に出しています。育成から肥育にするのもいます。複合経営といっても基幹となる柱は、規模拡大によって生産性を高めコストの低減を図る必要があり、農用地利用増進事業による受託耕作を始めました。近くの兼業農家の水田百六十アールを借り受け、水田耕作面積は四百九十四アールになりました。一方耕作面積の拡大だけでなく、単位面積当りの収量を向上させるために、土づくり深耕し元肥を少なくし育苗も播種量を少なくし太茎の苗をつくることとが基本であるように思っています。五十七年四月に長男が東京農大短大を卒業後就農したのをきっかけに後継者宮農の責任を持たせる意味もあつて、ニラの栽培を開始しました。自宅近くの水田の転作物として、面積は八アール小規模ですが周年栽培でやっています。今後の課題として、二毛作体系と転作田の連作障害の軽減を図るためブロックローテーション方式に取り組んでいく考えです。



ついで最近まで牛乳の消費が

優良農家紹介

わが家の経営状況

昭和十七年度卒 荒井 睦夫

酪農の始まりは、昭和二十三年で終戦後の混乱期から立ちあがる時に端を発し、遂に増頭し、経営基盤の整備と機械化をはかり今日に至つておられます。昭和五十九年度の専従者は二人で、経営状況は次の如くになります。

計十二頭の一貫経営に入りました。子牛はその時に応じて矢板市にある県経済連市場に出しています。育成から肥育にするのもいます。複合経営といっても基幹となる柱は、規模拡大によって生産性を高めコストの低減を図る必要があり、農用地利用増進事業による受託耕作を始めました。近くの兼業農家の水田百六十アールを借り受け、水田耕作面積は四百九十四アールになりました。一方耕作面積の拡大だけでなく、単位面積当りの収量を向上させるために、土づくり深耕し元肥を少なくし育苗も播種量を少なくし太茎の苗をつくることとが基本であるように思っています。五十七年四月に長男が東京農大短大を卒業後就農したのをきっかけに後継者宮農の責任を持たせる意味もあつて、ニラの栽培を開始しました。自宅近くの水田の転作物として、面積は八アール小規模ですが周年栽培でやっています。今後の課題として、二毛作体系と転作田の連作障害の軽減を図るためブロックローテーション方式に取り組んでいく考えです。

酪農の始まりは、昭和二十三年で終戦後の混乱期から立ちあがる時に端を発し、遂に増頭し、経営基盤の整備と機械化をはかり今日に至つておられます。昭和五十九年度の専従者は二人で、経営状況は次の如くになります。

計十二頭の一貫経営に入りました。子牛はその時に応じて矢板市にある県経済連市場に出しています。育成から肥育にするのもいます。複合経営といっても基幹となる柱は、規模拡大によって生産性を高めコストの低減を図る必要があり、農用地利用増進事業による受託耕作を始めました。近くの兼業農家の水田百六十アールを借り受け、水田耕作面積は四百九十四アールになりました。一方耕作面積の拡大だけでなく、単位面積当りの収量を向上させるために、土づくり深耕し元肥を少なくし育苗も播種量を少なくし太茎の苗をつくることとが基本であるように思っています。五十七年四月に長男が東京農大短大を卒業後就農したのをきっかけに後継者宮農の責任を持たせる意味もあつて、ニラの栽培を開始しました。自宅近くの水田の転作物として、面積は八アール小規模ですが周年栽培でやっています。今後の課題として、二毛作体系と転作田の連作障害の軽減を図るためブロックローテーション方式に取り組んでいく考えです。

昭和三十七年度卒 石川 市郎

現在我家は、酪農専業の経営をしております。父が昭和二十九年に一頭の子牛を購入し、それを基礎に酪農の第一歩を踏み出しました。最初は米、麦、野菜の複合経営でしたが、昭和五十二年、成牛二頭、育成牛五頭位となり我家の酪農専業の経営に専念する決心し、昭和五十四年に四十頭入りの牛舎を新築し現在に至っています。今我家には成牛三十二頭、育成牛十六頭の牛がいます。



優秀な先輩、そして後輩が多勢いるのにもかかわらず、母校同窓会優良農家推薦の話しを聞き、戸惑いと同時にためらいもありましたが、大分くたびれて来たので、もうひとふんばりをとと激励の意味での推薦であるのではと思ひ甘んじてお受けした次第

昭和三十九年度卒 渡辺 守雄



優秀な先輩、そして後輩が多勢いるのにもかかわらず、母校同窓会優良農家推薦の話しを聞き、戸惑いと同時にためらいもありましたが、大分くたびれて来たので、もうひとふんばりをとと激励の意味での推薦であるのではと思ひ甘んじてお受けした次第

昭和三十七年度卒 佐藤 良夫

私の経営は、水稲六三五アール（たん水直播三十アール含む）、ビール麦二六五アール、大豆一六〇アールの耕種複合経営です。

これまでの経過は、畑六〇アール、山林二〇〇アールを陸田化し、水田五〇アールを購入して稲作専業農家を目指してまいりました。しかし四〇年ほどより米過剰基調で、それ以前の増産政策とは一転して減反政策に変わってしまいました。転作田には、一時期落花生等も作付しましたが、思わしくなく、ビール麦を取り入れてから収益も上がり重要な作物になって来ました。また麦の跡地に大豆を取り入れることにより、なお一層安定した農業所得を得ることができ、次の足がかりになり

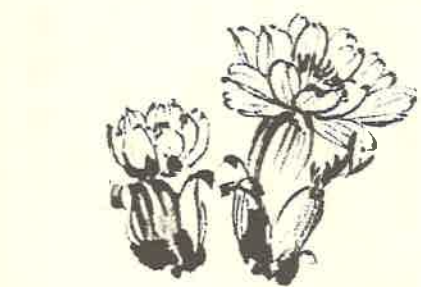
計画生産が功を奏し、牛飼いの明日に明るい日差しがさして来たような感じがします。これからは質の良い乳牛を揃え自家育成に力を入れて、個体別乳量を高めると同時に乳牛の個体販買にも力を入れて収益性の高い酪農経営をめ

昭和四十六年度卒 森島 隆雄



私は農業に従事して十三年になる。現在は水田が小作田も含め8ha（稲65ha減反田に小麦1.5ha）と新築栽培（毎年約500本）の経営である。稲の管理時期は母の手伝いがあるが、それ以外ほとんど夫婦の労働力で行っている。稲の品種作付けは越光を4ha、初星1ha、日本晴1.5haであるが来年は日本晴のかわりに星の光の種子を準備した。近代的多収栽培で収量を上げようと深層追肥や深層水栽培、粗植土壌改良などあらゆることをやってみたが、四年続きの不作には為す術もなかったが、五十九年の豊作では五十八年より百俵も増収してしまつた。天候に左右される農業で終わらせたくないと思うのだが……。

折角貴重なスペースを用意頂いたにもかかわらず、何ら実のない寄稿で恐縮に感じます。



軌道にのり、その収入も毎年大幅に増えている。植園年内

活動報告

農業クラブ今年のあゆみ

顧問 野沢博人

「歴史の重みと伝統」。創立八十周年を数後に控え、真農高農業クラブの今日までの三十五年間の歩みをまとめ、見えてくるところを感じた。昨年までの全国大会二年連続優勝の記録を更新すること出来なかったものの、栃木県連昭和五十九年度の競技八部門のうち、プロジェクトAプロジェクトB、意見発表C、家畜審査乳牛の部の四部門に最優秀賞を得た。

優勝することのみが目標ではないのは勿論であるが、農活動の確実な評価の一つである。

現在、農活動は「農業基礎」の内容として明確に位置づけられている。農は「全国の農業クラブ活動を促進して、クラブ員の産業人としての資質を高め、明日の農業の発展に貢献することを目指す」というものであり、教科「農業」の目標は、「農業および農村社会の発展を図る能力と態度を育てる」ことにあり、



家庭クラブ活動について

顧問 岡淑子

家庭クラブは、創造・愛情・勤労・奉仕の精神をもって未来のよき家庭経営者を育てることを目的に多くの活動をしてまいりました。講習会や工場見学などの研究活動・施設訪問やクリーン運動などの奉仕活動・そして他校との交歓会などの社交的活動と三つの分野共、役員中心に成果をあげることができました。活動報告として家庭クラブ会長・細島静江さんの保育実

「ないように長い場合はきちんと結ぶ。爪もきちんと切る。昼食は残さず、デザートは最後に食べるようになど、多くの指導を受けました。実習当日に見ると、保母さんには皆だして、指輪もネックレスもマニキュアもつけていません。皆身軽で活動しやすい服装でした。ここでも学校と同じような規則があるの驚いてしまいました。

園児は皆活発で、庭へ出ると無邪気に走り回ったり、ふざけたり、歌う時は喉がはれてしまふのではないかと、思う程大声で歌います。そして昼食の時は、口に食物を入れて話さないよう饅頭がはれており、きれいに残さず食べ、全員最後にはデザートを食べていました。食事の用意や後片付けの当番が決まっております、その当

「生徒自らの活動を」

顧問 関修一

一月十一日、昭和六十年度の新役員が任命され、いよいよ新年度に向けてのスタートが切られた。今年度もこれで生徒会の行事は中間報告会と予餞会の二つを残し、三月一日の卒業式を迎えることになりました。小柳会長およびそれを支えて頑張った役員、そして全校生徒諸君、および御父兄の皆様へ感謝するしだいです。

さて、一年間の活動を振り返ってみて、果たして充実した活動、精いっぱいやったんだという満足感のある活動ができたであろうか？……おそろしく諸君は、「もう少し面白いはずなのに……。」「こやうやればもっと良くなるはずだ……。」と思いつつ役員共々各種行事に参加し取り組んできたと思う。したがって、ただなんとなく「毎

「私の進む道」

食品化学科三年 栗原悦子

私が、本校の食品化学科に入学し、早くも過ぎ、あと三か月後には就職試験がはじまるとうとしています。

私は、現在、学校の進路調査には、就職することにしています。私は、以前から栄養士の専門学校に行きたいと希望しておりました。特に栄養士という資格には、とても魅力を感じていました。

このまま就職するよりも、資格を取ったほうが将来は有利ではないかと考えます。

今は、資格や、技術の必要ない時代です。これまでの学歴偏重の時代から、資格や、技術を持った人のほうが重宝がられる時代になっているのです。なかでも、人間の生活に大切な衣食住のうち、食の分野を担う栄養士がクローズアップされてきております。

私は、栄養士と云う資格はどのようなにすれば取れるのか、この職業が社会的にどのような意義があるのか、ぜひ知りたいと思ひ進路指導室に行き一生懸命調べてみました。

栄養士とは、身体の発育に必要な食物の栄養価を計算して、バランスのとれた献立を作成し、調理指導のできる人とい

「青年部活動報告」

事務局 高松正

研修旅行に参加して

青年部の役員研修旅行も、今年で四回目となり、行事の中に定着した感じがします。本年も、年度当初の計画案に基づいて、昭和五十九年十月に基いて、昭和五十九年十一月四日、五日の一泊二日の日程で県内視察を実施しました。

場所は、県立那須農業高校、学校法人アジア農村指導者養成専門学校、成成専門学校、身近な観光地の日光を見学してきました。

那須農業高校においては歴史ある学校はもとより、地学部出身の卒業生が中心となつて構成されている山水会という組織があつて、同校と深いつながりを持ち続け、学校のために大きく貢献しているという話に感銘を受けました。又、アジア学院においては、

「編集後記」

昭和六十一年、昭和の還暦ともいわれる。今年の社会状況もまた農業を取り巻く環境も厳しい。このような厳しい中にも夢と希望を抱えて進みたい。幸です。

編集委員一同

「私の進む道」

食品化学科三年 栗原悦子

私が、本校の食品化学科に入学し、早くも過ぎ、あと三か月後には就職試験がはじまるとうとしています。

私は、現在、学校の進路調査には、就職することにしています。私は、以前から栄養士の専門学校に行きたいと希望しておりました。特に栄養士という資格には、とても魅力を感じていました。

このまま就職するよりも、資格を取ったほうが将来は有利ではないかと考えます。

今は、資格や、技術の必要ない時代です。これまでの学歴偏重の時代から、資格や、技術を持った人のほうが重宝がられる時代になっているのです。なかでも、人間の生活に大切な衣食住のうち、食の分野を担う栄養士がクローズアップされてきております。

私は、栄養士と云う資格はどのようなにすれば取れるのか、この職業が社会的にどのような意義があるのか、ぜひ知りたいと思ひ進路指導室に行き一生懸命調べてみました。

栄養士とは、身体の発育に必要な食物の栄養価を計算して、バランスのとれた献立を作成し、調理指導のできる人とい

「私の進む道」

食品化学科三年 栗原悦子

私が、本校の食品化学科に入学し、早くも過ぎ、あと三か月後には就職試験がはじまるとうとしています。

私は、現在、学校の進路調査には、就職することにしています。私は、以前から栄養士の専門学校に行きたいと希望しておりました。特に栄養士という資格には、とても魅力を感じていました。

このまま就職するよりも、資格を取ったほうが将来は有利ではないかと考えます。

今は、資格や、技術の必要ない時代です。これまでの学歴偏重の時代から、資格や、技術を持った人のほうが重宝がられる時代になっているのです。なかでも、人間の生活に大切な衣食住のうち、食の分野を担う栄養士がクローズアップされてきております。

私は、栄養士と云う資格はどのようなにすれば取れるのか、この職業が社会的にどのような意義があるのか、ぜひ知りたいと思ひ進路指導室に行き一生懸命調べてみました。

栄養士とは、身体の発育に必要な食物の栄養価を計算して、バランスのとれた献立を作成し、調理指導のできる人とい

「私の進む道」

食品化学科三年 栗原悦子

私が、本校の食品化学科に入学し、早くも過ぎ、あと三か月後には就職試験がはじまるとうとしています。

私は、現在、学校の進路調査には、就職することにしています。私は、以前から栄養士の専門学校に行きたいと希望しておりました。特に栄養士という資格には、とても魅力を感じていました。

このまま就職するよりも、資格を取ったほうが将来は有利ではないかと考えます。

今は、資格や、技術の必要ない時代です。これまでの学歴偏重の時代から、資格や、技術を持った人のほうが重宝がられる時代になっているのです。なかでも、人間の生活に大切な衣食住のうち、食の分野を担う栄養士がクローズアップされてきております。

私は、栄養士と云う資格はどのようなにすれば取れるのか、この職業が社会的にどのような意義があるのか、ぜひ知りたいと思ひ進路指導室に行き一生懸命調べてみました。

栄養士とは、身体の発育に必要な食物の栄養価を計算して、バランスのとれた献立を作成し、調理指導のできる人とい

「私の進む道」

食品化学科三年 栗原悦子

私が、本校の食品化学科に入学し、早くも過ぎ、あと三か月後には就職試験がはじまるとうとしています。

私は、現在、学校の進路調査には、就職することにしています。私は、以前から栄養士の専門学校に行きたいと希望しておりました。特に栄養士という資格には、とても魅力を感じていました。

このまま就職するよりも、資格を取ったほうが将来は有利ではないかと考えます。

今は、資格や、技術の必要ない時代です。これまでの学歴偏重の時代から、資格や、技術を持った人のほうが重宝がられる時代になっているのです。なかでも、人間の生活に大切な衣食住のうち、食の分野を担う栄養士がクローズアップされてきております。

私は、栄養士と云う資格はどのようなにすれば取れるのか、この職業が社会的にどのような意義があるのか、ぜひ知りたいと思ひ進路指導室に行き一生懸命調べてみました。

栄養士とは、身体の発育に必要な食物の栄養価を計算して、バランスのとれた献立を作成し、調理指導のできる人とい

「私の進む道」

食品化学科三年 栗原悦子

私が、本校の食品化学科に入学し、早くも過ぎ、あと三か月後には就職試験がはじまるとうとしています。

私は、現在、学校の進路調査には、就職することにしています。私は、以前から栄養士の専門学校に行きたいと希望しておりました。特に栄養士という資格には、とても魅力を感じていました。

このまま就職するよりも、資格を取ったほうが将来は有利ではないかと考えます。

今は、資格や、技術の必要ない時代です。これまでの学歴偏重の時代から、資格や、技術を持った人のほうが重宝がられる時代になっているのです。なかでも、人間の生活に大切な衣食住のうち、食の分野を担う栄養士がクローズアップされてきております。

私は、栄養士と云う資格はどのようなにすれば取れるのか、この職業が社会的にどのような意義があるのか、ぜひ知りたいと思ひ進路指導室に行き一生懸命調べてみました。

栄養士とは、身体の発育に必要な食物の栄養価を計算して、バランスのとれた献立を作成し、調理指導のできる人とい

